

令和6年度 第1回 横浜市本牧市民公園内の体験学習施設（横浜市陶芸センター）
指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 令和6年10月24日（水） 13時30分から14時50分まで

2 場 所 横浜市役所 18階 さくら14会議室

3 出席者 加世田 恵美子 委員、豊福 誠 委員、花里 麻理 委員、古本 悦子 委員

4 傍聴者 なし

5 議事内容

議 題	<p>1 議題1：委員長選出</p> <p>2 定足数の確認</p> <p>3 委員会の公開・非公開について</p> <p>4 議題2：令和5年度業務評価</p>
議事・ 委員意見等	<p>1 議題1：委員長選出 「横浜市本牧市民公園内の体験学習施設（横浜市陶芸センター）指定管理者選定評価委員会運営要綱」（以下「運営要綱」という。）第6条第1項に基づき、委員の互選により豊福委員を委員長に選任した。</p> <p>2 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>3 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>4 議題：令和5年度業務評価 (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和5年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価 業務評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。</p> <p>＜主な意見及び質疑内容＞ (以下「・」は委員、「→」は指定管理者)</p> <p>「使命1 陶芸に親しむ機会を提供する」「使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する」について</p> <p>【評価する点】 ・各教室・講座はきめ細やかにプログラミングされており、陶芸を始めてみたいと</p>

いう方から、さらに深めてみたいという方まで、どのようなニーズにも応えられるようになっている。それがこの活況につながっていると考えられる。

- ・各講座でアンケートを実施し、5段階評価で「満足」の割合が80%や90%を超え、参加者から高い評価を受けているのは本当に素晴らしい。

- ・使命1では、多くの講座で目標を上回る参加があり、かつその満足度が高かったことは大変評価できる。

- ・使命2に、物を作る過程を楽しむ講座があるのもよい。もしニーズがあるのが明確になってくれば、プログラムを広げていくことも考えられる。

- ・使命2は、利用者側に立った取組を考えていることが評価できる。

- ・短期間であるが、様々な講座を開いていることを評価したい。短い講座をたくさん実施するのは非常に手間がかかるが、その点でよくできていると感心した。

【更なる取組を期待する点】

- ・現役世代の年齢が上がっている中で、生涯学習に取り組んでいく人をどのように増やしていくかが課題となっている。陶芸センターでは様々な講座を組んでいるので、種まきという意味でこれからも続けてほしい。

- ・参加者のライフステージに合わせて、開催日や曜日のレパトリーを多くするよう検討してほしい。

- ・限られた人数と施設でこれほど価値ある内容の取組をしているので、合理化や労力削減も考えないと大変なのではないか。

- ・招待作家講座の中止は新型コロナウイルス感染症が関係していて、どうしようもなかったと思うが、令和6年度以降も継続して開催してほしい。

- ・決して伝統的なことが悪いわけではないが、若年層に参加してもらい、深く長く利用してもらうためには、常に目新しいものを提供することが必要だと思う。

「使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する」「使命4 持続可能性を高める施設運営を行う」「その他」について

《質疑》

- ・収支の人件費について、令和5年度の給与は予算よりも100万円近く抑えられているが、その割に社会保険が増加しているのは、雇用形態が変わったからか。
→令和5年度は退職者と新規採用者が多かったのも、それが影響している。

- ・水道光熱費は予算よりも100万円近く抑えられたのは素晴らしい成果だと思うが、特に電気料金が90万円近く支出を抑えられた原因は何か。

→電気は、本牧市民公園からキュービクルで分岐して供給を受けているが、公園側が電力会社を変更したこと、そして陶芸センターの空調機を令和4年度末に横浜市の工事で新しいものに変えて、消費電力が減少したことが影響した。温度環境も良くなった。

・照明器具が今後LED化されると、電気代はさらに下がっていく可能性もあるのか。

→まだ半分ほど蛍光灯が残っており、LED化により電気代の削減効果が期待できる。

・支援型講座はどのように周知しているのか。

→指導者研修講座が元々あって、その講座に参加した先生方への情報発信などにより、少しずつ広がってきている。

【評価する点】

・支援講座、団体教室、出張教室は、満足度は言うまでもなく、次年度の開催にもつながっているのがよい。

・三溪園や本牧市民公園と立地を生かした共催イベントができ、双方の相乗効果が大きかったのではないかと。今後も継続できる、よい仕掛けになっている。

・陶芸の専門施設としての認知度が非常に高まっており、日常的に陶芸窯に関する相談を受けていることは素晴らしい。

・日々の気づきを大切にして、施設のメンテナンスをきちんと行って運営していることを評価したい。

・過去最大の入場者となった陶芸祭が、多くの来場者の満足するイベントとなり、陶芸の魅力を多くの方に伝えることができたことは大変評価できる。

・施設内設備の早期修繕や見回り点検、道具類のメンテナンスが適正に行われ、適切な施設管理ができている。また、経費削減を進めていることも評価できる。

・排水施設や棚の整理方法など、施設の管理が徐々に良くなっており、施設管理者として努力していることがよく分かった。

・自主事業の収入が予算額を大きく上回り、かつ、自主事業支出がそれに比べて随分抑えられていて、優良な収支になっていたのは大変評価できる。

【更なる取組を期待する点】

・各教室・講座のクオリティーが下がらないようにするためにも、指導者研修講座や団体教室オーダープランなど、思ったほどの成果を出せていないものに関しては、いま必要なのか冷静に判断してもよいのではないかと。

・団体教室オーダープランは、継続するのであれば目標を達成できるよう柔軟に対

応してほしい。

- ・陶芸文化鑑賞講座は、勉強としての鑑賞をメインにするよりも、参加者が自分で作ってみたい、土に触ってみたい、焼いてみたいという、作る気持ちを刺激する展覧会や場所を選ぶと、陶芸センターの活動とつながっていくように思う。

- ・人口が減少する中でも、小・中学生など子どもたちをどう取り込んでいくかは大きな課題だが、陶芸センターが今後の取組をどのように展開していくのか、うまく読み取れない。ここにもう少し重点を置いてもよいのではないかと感じる。

- ・利用者に高齢者が多いため、事故が起きる可能性を想像し、不測の事故にも備えてほしい。

- ・女性スタッフや女性利用者の意見を聞き取ったこと、日常的にスタッフの方々が皆で考え合っているんな器具を変えたことなどにより、より使いやすい施設になっていると思うので、引き続き取り組んでほしい。

「総括」について

《質疑》

- ・指定管理者によると「令和5年度は点数でいえば100点満点中80点」ということだったが、マイナスの20点分は何だったのか。

⇒招待作家講座が、直前になって新型コロナウイルスの影響で中止になってしまったことが大きい。それ以外では、自由作陶教室の年齢層が高齢化しており、受講者が減っている。若年層をもっと引き込むため、作った食器を実際に使えて食器づくりの楽しさを感じられるような、若者にも向けた講座を今年度、新たに始めている。

- ・施設利用者の高齢化の中でどのように対処していくかは非常に難しいと思うが、子どもたちに向けた手立ては夏休みだけではなく、様々な手法があると思う。

→令和6年5月に「オープンスタジオ」を初めて実施した。すべて無料で、楽焼、手びねり、電動ロクロなどを試してもらい、先生がそれぞれついた。すると、予約なしにその場で体験できるのは貴重だったというアンケート結果があり、そこから自由作陶教室に参加した人もいたので、次年度も継続して行いたい。子どもたちを対象に、もっとオープンな企画を立てていきたいとも思っている。

- ・出張陶芸は行っているのか。

→幼稚園など、年に2～3件ほどある。

【評価する点】

- ・令和5年度の事業運営は順調で、きちんと行われていることがよく分かる内容だった。

- ・1年間ほぼ開館している状況をつくっており、活気のある状況を創り出して、しかも満足度が高く、施設管理も行き届いていて、大きな可能性を創出している。

・スタッフが細やかに様々なことに気づき、また利用者から聞き取りをして、レイアウトの変更や器具の交換を利用者目線で速やかに行っており、施設運営で大いに評価できる。

【更なる取組を期待する点】

・5年、10年先の年齢層をターゲットにするやり方もあるが、「この講座は5年後こういうふうになっていたい」と中長期をにらんで講座を組み立てていく考え方もあるので、双方の考え方を検討し、取り入れてほしい。

・大規模改修が必要な場合は市と相談し、学校との連携に関しても市の関与の仕方について考えてほしい。この先どういう方に施設を利用してほしいか、時間をかけてイメージを構築しないと実現しづらいと思うので、今後、着手していくことを望みたい。また、広報もどのように市と連携していくか考えてほしい。

・陶芸センターは公設だからできる取組があり、それだけにミッションも多いとは思いますが、手頃な価格で参加できることがもっと周知されるとよい。

・利用者の高齢化が進んでいて、対策を始めているとは思いますが、今後の運営を考えると若年層の利用者の獲得はどうしても必要。さらなる魅力的な講座の開催や、情報発信をしてほしい。

5 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとした。